

旧岡崎家能舞台と能面・装束の世界

小樽の能楽

小樽には、北海道唯一の能舞台「旧岡崎家能舞台」があり、小樽市指定歴史的建造物に登録されています。江戸幕府が幕末に整えた最上級の格式ののっとなっている能舞台として、東北以北で唯一のものとされます。旧岡崎家能舞台は、大正15年、小樽の商人岡崎謙が、入船の自邸の中庭に見所とともに創建しました。没後、岡崎家から舞台部分を切り離して小樽市に譲られ、昭和36年に旧小樽区公会堂とともに小樽公園内に移築されました。その後、能舞台の整備と有効利用を目的に、「能に親しむ会」、続いて「旧岡崎家能舞台を生かす会」が発足。同会は、移築してから演能されずにあった能舞台の復活を願い、三ツ江匡弘会長を中心に、謡や仕舞などの講座や「能楽体験ゼミナール」など、市民に能の魅力を伝える活動を積み重ねました。このような活動が評価され、平成23年「旧岡崎家能舞台を生かす会」は、北海道地域文化選奨を受賞しています。

一方、能面作家の外沢照章は、能舞台に魅かれて小樽に移住を決め、三ツ江会長と深い交流を育み、演能への作品提供や能舞台に隣接する公会堂を拠点に15年にわたる公開制作や能面展を開催しました。

本展は、北海道に能楽文化を根付かせる原動力となった歴史的能舞台「旧岡崎家能舞台」にちなみ、岡崎家ゆかりの品々、多彩な装束、謡本、扇子類と、能舞台の建築模型・設計図、外沢照章制作の能面の数々を展覧するものです。あわせて、岡崎謙の業績と、その心を受け継いだ三ツ江匡弘の活動を紹介します。



旧岡崎家能舞台建築模型（駒木定正監修） 北海道職業能力開発大学校蔵



狸々 外沢照章作



童子 外沢照章作



赤般若 外沢照章作



岡崎家の能装束

*都合により出品作品が変更になる場合があります。

関連事業

企画① 駒木定正(建築史家)講演会

6月4日(土) 14:00~15:00 研修室・展示会場 要観覧料
旧岡崎家能舞台の和風建築としての歴史的な価値、特徴を解説します。

企画② 外沢照章(能面作家)公開展示替・解説会

6月11日(土)、12日(日) 10:00~15:00 展示会場 要観覧料
外沢照章先生自ら、能面の裏側をお見せしながら解説いたします。直接お会いできる貴重な機会です。

企画③ 着物で来館！プレゼント<先着40名様>

6月12日(日) 10:00~15:00 展示会場 要観覧料
展示会場にお着物を着用してご来館下さった方に、美術館協力会よりささやかなプレゼントを差し上げます。能面作家・外沢照章先生の作品解説も行われます。



演能「高砂」シテ・岡崎謙 1927年11月(鏡板揮毫記念能)

岡崎 謙 1877(明治10)年~1954(昭和29)年
新潟県佐渡郡西三川村(現羽茂町小泊)生まれ。小樽で商売を営む父のもとに移住し、上京して東京英和学校(現青山学院大学)、東京高等商業学校(現一橋大学)に学んだ。卒業後、家業の荒物卸・倉庫業を継ぐとともに、小樽区区議員、市議会議員(大正11年市政施行)を歴任、恵まれない児童・生徒のために育英事業を興した。上京中に宝生流の波吉門下において能を習い、帰郷後、本格的な能舞台を建築する。ここには多くの賓客が訪れ、昭和3年に徳川喜久子(後の高松宮妃)、同6年に貴族院議長の徳川家達、同9年に宝生重英(宝生流17世宗家)らが来訪した。宝生流、観世流の宗家をはじめとする、昭和・大正期の能楽師たちは競ってここで演能し、小樽において一時能楽文化が花開いた。

市立小樽美術館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号
電話 0134-34-0035 FAX0134-32-2388

<共催>

旧岡崎家能舞台を生かす会
<https://www.otaru.net/kagamiita/>